

学校教育目標（本校の生徒像）	重点目標（中・長期的目標）
1. 常に進歩のため問題をもってことにつく 2. 常に成功の可能性を確信してことに当たる 3. 常に協調融和の精神をもってことを行う	1. 個に応じた進路指導と生徒の進路実現及び学習集団づくり（進路指導） 2. 基本的な生活習慣の育成と人間性の向上（生活指導） 3. 自主的に活動できる態度の育成（生徒会・自主活動など）
<h2>今年度の重点目標</h2>	進路指導について 1 個々の生徒の進路希望実現のために、きめ細かい個人指導体制を確立する 2 自主的・積極的に学習に取り組む生徒集団の育成を図る 3 本校の新たな魅力作りのために進路指導の新たなシステムを研究する
	生活指導について 1 南高生に相応しい身だしなみと生活を確立させる 2 暴力行為といじめおよび類似行為を日常生活から根絶する 3 交通ルールを遵守し、命の尊厳を自覚する 4 盗難事件を根絶する
	生徒会活動 自主活動について 1 生徒会行事や広報活動を通じて、生徒会活動・クラブ活動への理解の向上をはかる 2 全校生徒が自主的に参加する生徒会行事を企画・運営する 3 校内自治活動の充実：生徒会発案の「プロジェクトN」を促進する 4 地域へ情報発信し、活動をアピールする

A：十分 B：おおむね十分 C：やや不十分 D：不十分

領域	対象	実施項目（評価の観点）	実施項目に対する評価の方法等	成果と今後の課題等	学校関係者評価				
					評定	コメント			
教育活動	進路指導	進路希望調査、生徒面談、保護者懇談（全学年）	学級担任、教科担任への聞き取り調査による評価	・進路希望調査、生徒面談、保護者懇談については、計画通り実施。生徒面談は重要であるが、十分な時間が取れない現状がある。 ・模擬試験も予定通り実施。行事計画のなかで、最適な時期に実施できるよう考えていく必要がある。 ・進路講演会は計画通り実施。生徒や保護者に有益であった。 ・学習合宿は形式的なものとなっているので、検討が必要である。 ・出願に向けての指導は十分で来たと思われる。小論文指導は、国語科の授業の中で行うことが単位数の関係で難しくなったため、指導方法について検討する必要がある。 ・合同LHRは計画通り実施。節目節目で生徒たちへの良い刺激となっている。 ・補習については学年によってまちまちになってきているので、補習のあり方から検討する必要がある。 ・特編授業については効率的な時間割作成が困難になっているが、サテライト授業も含めて生徒には好評である。 ・家庭学習時間については、十分な時間が確保できていない。宿題や小テスト、補習などを通じて家で学習する時間の確保につなげてはいるが、入学直後の初期指導や卒業後の進路目標設定などさらなる取り組みが必要である。 ・来年度にむけ、より長期的で具体的な授業計画及び授業方法について、検討を進める必要がある。 ・主に、三学年を対象に信州大学を中心とした研究会を実施した。	B	・H23年度選抜の志願者が少なさの一因は前年度の進学実績か？志願倍率も学校に対する評価のひとつと捉え、原因の分析を行って欲しい。 ・3年間見通しての指導計画を綿密に立てて指導願いたい。 ・小論文対策をどしどしやっていただきたい。			
		模擬試験の活用（全学年）							
		進路講演会等による進路決定のサポート（全学年）							
		学習合宿（1年）	実施後アンケートで「役に立った（良かった）」「どちらかといえば役に立った（良かった）」を合わせて6割を目標にする						
		出願、面接、小論文指導							
		学年合同LHRの実施（全学年）							
	学力向上	卒業アンケートの実施(3年)	アンケートで「良かった」6割を目標とする		B	・行われている内容は素晴らしいと思うが、よい成果を上げていくには動機付け、本人の自覚が必要と思われる。 ・中学での学習実態を把握し、学習方法を確実に身につけさせて欲しい。 ・1年生の学習合宿を入学後できるだけ速やかに行うのが効果的ではないか。			
		補習、早期テスト、整理テスト等の実施(全学年)	実施後アンケートで「役に立った（良かった）」「どちらかといえば役に立った（良かった）」を合わせて6割を目標にする						
		入学試験・模擬試験の分析と授業方法の改善(全学年)	実施後アンケートで「役に立った（良かった）」「どちらかといえば役に立った（良かった）」を合わせて6割を目標にする						
	研究・研修	特編授業、サテライト授業(3年)	家庭学習時間等調査で評価する		B	・平成23年4月からの Semester 制完全実施の成果を期待したい。 ・Semester 制導入の目的・効用を、もっと生徒に伝えるべきである。 ・Semester 制のPR不足である。			
		家庭学習時間確保のための取組み(全学年)	生徒アンケートにより評価する						
	教育課程	研究・研修	授業改善のための授業法・シラバス研究	職員アンケートにより評価する	・主に、三学年を対象に信州大学を中心とした研究会を実施した。	A	・全国大会で活躍したクラブのあることは、高く評価したい。 ・南高祭は同窓会も参加し、充実していた。 ・南高祭、強歩大会についてはよい思い出となるので、是非、継続して欲しい。		
			進路研究会（職員対象）の実施	職員アンケートにより評価する					
		教育課程	効果的な65分授業の進め方の研究	各教科会による評価				教員側としてやりやすいという評価もある。生徒にとっても概ね好評である。 生徒のアンケートによると3年前期特編について「ちょうどいい」が、65%以上であり、前期においても生徒の希望に添った選択ができたと感じられる。また、この制度をより良いものにするためには、施設や人的配置など必要になるとと思われる。 Semester 制が全学年でそろった状況で、全学年の教育課程の原案を作成し、職員会で承認された。新教育課程に向けた作業	
			新3年生の進路実現のための生徒の希望に添った選択科目講座の編成	アンケートで「良かった」6割を目標とする					
次年度に向けた教育課程の改訂			12月までに成案を提示する						
生活指導			南高生にふさわしい身だしなみの確立	合同HRでのチェックで5%未満とする					茶髪や装飾品等が減少し、全体的に落ち着いている。 暴力行為は無かったが、いじめに類似するいざずらなどがあり注意深く対応する必要がある。 自転車事故が何件もあり、交通ルールやマナーの徹底をさらに強化する必要がある。 今年は事例が無く、指導には至っていない。 特定の生徒に遅刻が常習化しており、粘り強い指導が必要である。 本校では指導事例はないが、諏訪地区全体では最も多い喫煙に関する問題行動には注意が必要である。 現金の盗難事件が何件もあった。犯罪行為に対する毅然とした指導と貴重品の管理意識の徹底が必要である。
			いじめ・暴力行為の防止	事例件数ゼロを目指す					
			交通安全の徹底と免許の無断取得防止	自転車事故件数を10件未満にする					
			無断アルバイトの禁止	指導件数ゼロを目指す					
行事 生徒会活動			遅刻・さぼり及び昼休みなどの無断外出の防止	当番職員による評価					今年度の生徒会行事は、すべての行事が大きな問題なく実施することができた。 南高祭も天気に恵まれ、多くの来校者に来ていただいた。生徒のアンケート、来校者のアンケートともに満足度は高かった。 クラブ加入率は1年生が89.2%、2年生が90.6%、3年生が89.2%(4月時点)であった。インターハイは漕艇部(ダブルスカル)、弓道部(男子団体)、スケート部が出場した。演劇部が関東大会で優秀賞を獲得した。 体育委員を中心に生徒主導で運営できた。秋のクラスマッチは少々伸びてしまい、終了時間がおそくなった。 企画運営とも順調にできた。クラブの大会出場の関係で、参加率は昨年を下回ったが、完歩率は昨年を上回る86.9%であった。
	飲酒・喫煙・薬物防止の指導	指導件数ゼロを目指す							
行事 生徒会活動	盗難防止及び現金・貴重品の管理の徹底	巡視職員の申告により判断する	今年度の生徒会行事は、すべての行事が大きな問題なく実施することができた。 南高祭も天気に恵まれ、多くの来校者に来ていただいた。生徒のアンケート、来校者のアンケートともに満足度は高かった。 クラブ加入率は1年生が89.2%、2年生が90.6%、3年生が89.2%(4月時点)であった。インターハイは漕艇部(ダブルスカル)、弓道部(男子団体)、スケート部が出場した。演劇部が関東大会で優秀賞を獲得した。 体育委員を中心に生徒主導で運営できた。秋のクラスマッチは少々伸びてしまい、終了時間がおそくなった。 企画運営とも順調にできた。クラブの大会出場の関係で、参加率は昨年を下回ったが、完歩率は昨年を上回る86.9%であった。						
	委員会活動の活性化と生徒会行事の企画・運営	生徒会アンケートでの満足度80%以上を目指す							
	南高祭における自主性・創造性の育成	南高祭アンケートでの満足度80%以上を目指す							
学校運営	行事 生徒会活動	部活動の活性化および活動の広報 全校の応援意識の向上	クラブ加入率70%以上 県大会以上出場者の壮行	4月の授業公開は、昨年より増えた。特に中学生の姿が目立った。(57名) 数校と日程が重なったこともあり、参加人数は減少した。学校からの説明に「参考になった」が70%と目標を下回ってしまった。体験入学の時期・形態について検討していく必要がある。 Webページは、週ごとの更新を行うことができた。来年度も頻繁に本校の様子を発信していきたい。 前期選抜をやめたこともあり、中学校への広報活動がやや少なかった。来年度は幅広い広報活動が必要である。	C	・中学生の体験入学が入学志願に結びつくよう、工夫を凝らして欲しい。 ・中学生へのPRを強めるべきだ。 ・体験入学が何校か重なってしまっただけで残念だ。 ・優秀な生徒を取るためにも更に広報活動の充実を。 ・「Semester 制」という名称(キャッチコピー)では教育課程の利点が伝わりにくいのではないかと。中学生や保護者にわかり易い呼び方が必要では？			
		クラスマッチ等、各種行事の企画運営	生徒主導の運営・生徒の積極的な意識 安全な運営実施						
	強歩大会の企画運営	大会参加率を向上させ、すべての生徒が安全に完歩でき、完歩率80%以上を目指す							
学校運営	授業公開	授業公開の実施	授業公開への参加者数を昨年より増やす	4月の授業公開は、昨年より増えた。特に中学生の姿が目立った。(57名) 数校と日程が重なったこともあり、参加人数は減少した。学校からの説明に「参考になった」が70%と目標を下回ってしまった。体験入学の時期・形態について検討していく必要がある。 Webページは、週ごとの更新を行うことができた。来年度も頻繁に本校の様子を発信していきたい。 前期選抜をやめたこともあり、中学校への広報活動がやや少なかった。来年度は幅広い広報活動が必要である。	C	・中学生の体験入学が入学志願に結びつくよう、工夫を凝らして欲しい。 ・中学生へのPRを強めるべきだ。 ・体験入学が何校か重なってしまっただけで残念だ。 ・優秀な生徒を取るためにも更に広報活動の充実を。 ・「Semester 制」という名称(キャッチコピー)では教育課程の利点が伝わりにくいのではないかと。中学生や保護者にわかり易い呼び方が必要では？			
		体験入学の実施	参加者アンケートで「よかった」「参考になった」をあわせて80%以上を目標						
	地域・他者との交流活動	海外からの修学旅行生や、各種視察の受け入れ 地域で開催される行事への生徒の参加の促進	Webページを見やすいものにし、常に更新する。年間アクセス数2万回を目標						
学校運営	広報活動	学校公式Webページの管理・更新	新聞・パンフレットなどさまざまなメディアを利用して本校の活動実績を広く宣伝できたか	4月の授業公開は、昨年より増えた。特に中学生の姿が目立った。(57名) 数校と日程が重なったこともあり、参加人数は減少した。学校からの説明に「参考になった」が70%と目標を下回ってしまった。体験入学の時期・形態について検討していく必要がある。 Webページは、週ごとの更新を行うことができた。来年度も頻繁に本校の様子を発信していきたい。 前期選抜をやめたこともあり、中学校への広報活動がやや少なかった。来年度は幅広い広報活動が必要である。	C	・中学生の体験入学が入学志願に結びつくよう、工夫を凝らして欲しい。 ・中学生へのPRを強めるべきだ。 ・体験入学が何校か重なってしまっただけで残念だ。 ・優秀な生徒を取るためにも更に広報活動の充実を。 ・「Semester 制」という名称(キャッチコピー)では教育課程の利点が伝わりにくいのではないかと。中学生や保護者にわかり易い呼び方が必要では？			
		教育活動や各種イベント等の情報発信	セメスター制による進学対応型単位制についての広報				新聞・パンフレットなどさまざまなメディアを利用して本校の活動実績を広く宣伝できたか		